

ローカルマニフェスト

氏名 星 一男 印

【Ⅰ 基本理念（日光市政の現状認識・目指すべき日光市の姿）】

（現状認識）

日光市は、「日光国立公園」「世界文化遺産登録」「ラムサール条約登録」地域を有する、我が国で唯一の都市であります。このことは、保養・文化・自然にお墨付き与えられた証であることから、観光地にとっては最高の荣誉であると共に、それは、居住環境にも恵まれていることを意味します。

しかし、日光の産業は厳しい環境にあり、農林業や商工業は、グローバル化や市場原理により疲弊し、次世代の担い手も儘ならない状況にあります。一方、羨ましがられるほどの地域資源を持つ観光においても、そのブランド力を活かしきれていない状況が続いています。

それらのことから、合併後において年間約 1,000 人の人口減少が続いており、今後の持続発展可能性に暗い影を落としています。

また、財政状況についても「将来負担率」や「人口 1 人あたりの地方債」が県内 14 市では最悪で、孫子の代へのツケが懸念される状況にあることから、この打開が最大の課題といえます。

（目指す姿：長期構想）

自然、文化、及び豊かで良質の水や温泉などの天然資源に恵まれ、また、首都圏に近接した観光地であることから、鉄道、道路等の交通インフラにも恵まれている日光市であります。しかし、それを活かしきれていないことから、経済基盤の脆弱性が大きな課題となっており、結果として十分な雇用確保が図られず、人口減少や財政悪化が起きています。

そこで、「農・林・商・工・観光」や、それらを包含した「6次産業化」への振興策を実施し、経済の活性化を図りつつ、雇用を安定させることが大切といえます。それらが達成できれば、若者の転入や子供の増加も見込まれ、相対的に老年人口比率の上昇も抑えられることから、税収増や財政状況が好転することで、福祉や医療サービスの向上も図られます。

なお、合併した 5 地域の人々が、安心して暮らすためのバランスある地域振興、及び日常生活を送るための生活基盤を整備することが重要であることは申すまでもありません。

そのようなことから、目指す将来像を「市民が夢と希望を持って暮らせる日光市の再生」と定め、「バラマキ」や「パフォーマンス」ではなく、安心して次世代に引き継ぎができる持続可能な都市づくりを目指していきます。

すぐに行う重要施策（3つ以内【優先順に】）

- ① 行財政改革の断行で歳出カット、及び公平・公正・透明性の確保
 - ・市長報酬の 3 割カット、及び公用車による送迎を廃止します。
 - ・第三者による、マスコミを含めた一般公開での事業仕分けを実施します。
 - ・多選禁止（自粛）条例を制定します。
- ② 新設クリーンセンター搬入路の白紙・凍結
すでに、県道使用を前提とした、環境アセスメントや都市計画決定が終了している状況下においてのクリーンセンター新設搬入路建設であります。まず、その計画を白紙・凍結し、「事業仕分け」や、センター供用後の搬入車両走行による影響の「社会実験」などを踏まえた中で、今後の対応を検討します。
- ③ 市民生活向上への機構改革
 - ・分譲地対策室を復活（現在の、維持管理課公園緑地係での兼務を、専門部署に移し、問題解決への強化を図る）します。
 - ・男女共同参画課を復活（現在の、福祉部門での人権・男女共同参画課での兼務を全庁的視点から総務・企画部門に移し、男女共同参画社会の実現を図る）します。
 - ・支所の市民センター化（公共サービスのワンストップ化、生涯学習機能、地域振興機能をセンターに置く）をすすめます。

4 年間で行う重要施策（3つ以内【優先順に】）

- ① 土沢インター周辺の産業団地整備など、特色を活かした工業基盤の集積
交通結節点の優位性を生かし、国有地である土沢苗畑跡地に、県との連携で産業団地を整備するとともに、市内の工業適地に、良質で豊かな水や自然環境を活かした工場誘致の促進を図ります。
- ② 少子・高齢化社会への対応
 - ・交通弱者への対応：予約制デマンドタクシー、100 円ミニバスなど公共交通の確保を図ります。
 - ・高齢者への支援：過疎地域、中心市街地に高齢者向け共同住宅の設置、及び特養ホームの整備促進や生涯現役をサポートするための生きがいセンターを整備します。
 - ・少子化への対応：産婦人科を含む病（医）院の誘致、及び病児保育施設の促進を図ります。
- ③ 世界的文化遺産と天然資源の保全・活用
杉並木バイパス整備（森友～大沢間）や杉並木街道の遊歩道化、及び足尾の世界遺産暫定リスト登録の推進などで観光客を増やします。